

## 【経営学科 小論文】

今後の社会における効率の在り方について、経済的な利益や節約を追求する分野では効率を重視せざるを得ないとしても、人間の健康・安全・芸術などに関わる分野では効率を優先すべきではないと私は考える。

私の体験でいうと、服や文具を買うときにはコスパを意識している。いくら素材やデザインがよいからといって、高価なものを買う経済的余裕がないからだ。現在の日本社会は少数の富裕層と大多数の貧困層へと二極化しつつあるそうだが、私を含めた大多数の国民は、生活必需品を購入する際には「なるべく良いものを、なるべく安く買いたい」と考える点で効率を重視せざるを得ないと思う。

一方で、健康や安全に関わる事柄で効率を追求することには大きな危険がともなう。私は「1箱で1日分のカロリーやビタミンがとれる」といった宣伝文句の食品をコスパのよい食品と思って食事代わりにしていた時期があるが、その時期は決して体調が良かったわけでもなく、かぜもひきやすかった。これは、コスパやタイパという価値基準の通用しない分野ではないだろうか。また、芸術や文学に対して効率性を求めることにも大きな問題がある。私も、本文に出てくる人と同じように「タイパを重視して、映画を早送りで見た」ことがあるが、物語の中でどういう出来事があったかという情報は得られても、他者の人生を疑似体験するといった感動や充実感は得られなかった。他の分野でも、「音楽を倍速で聞く」などの聴収のしかたでは芸術作品に感動し、自分の個性や感性をつくっていくことにはつながらないと思う。

以上で述べたように、今後の社会においては、人間の健康・安全・感動などを追求する分野では効率を優先すべきではない。本文に出てくるような「圧倒的な個性」も一つの分野への集中的で膨大な経験を通じて育ってくるものであり、効率よく身に付けられるようなものではないだろうと私は考える。(782字)